

ヒト・モノ・カネもシェアする時代へ

オープンイノベーションによって 現代社会の課題を解決する

少子高齢化、経済格差、環境汚染……

現代社会はさまざまな課題を内包しています。

これらの問題は行政だけでなく、

民間企業もまた自分事として取り組むべき課題ですが、
一方で一企業で取り組むにはコストもリスクも伴います。

そこで、あらゆる枠組みを超えて、

技術やアイデア、人員や資金をシェアして革新を行う

「オープンイノベーション」に注目が集まっています。

本例会では、オープンイノベーションの意義や方法論について理解を深め、

そして実例を通して、他者とのつながりによって

社会課題を解決する方法を学びました。



2019年3月18日、有楽町朝日ホールにて、
一般社団法人 東京ニュービジネス協議
会、東京商工会議所ご協力のもと、東京青
年会議所3月例会「つながる力で社会を変
える 未来型資本主義」を開催しました。
三部構成の本会では、総勢417名の方にお
越しいただき大盛況にて終了しました。



民間企業にも 持続可能な社会活動が必要

3 月例会の第一部は基調講演として、衆議院議員であり東京青年会議所第54代理事長でもある平将明氏にご登壇いただき「先進国における民間企業の在り方」についてご講演いただきました。これからの時代において、従来の枠組みを超えた「オープンイノベーション」がいかに大切か、そして企業としてどのようなビジョンを描くべきかについて語っていただきました。

さらにSDGs、ダイバーシティ、ESG投資、行政の問題点など、今後重要になる経済及び社会活動についてお話いただき、社会課題解決を伴った「サステナブル(持続可能)な行動」の重要性について改めて理解することができました。

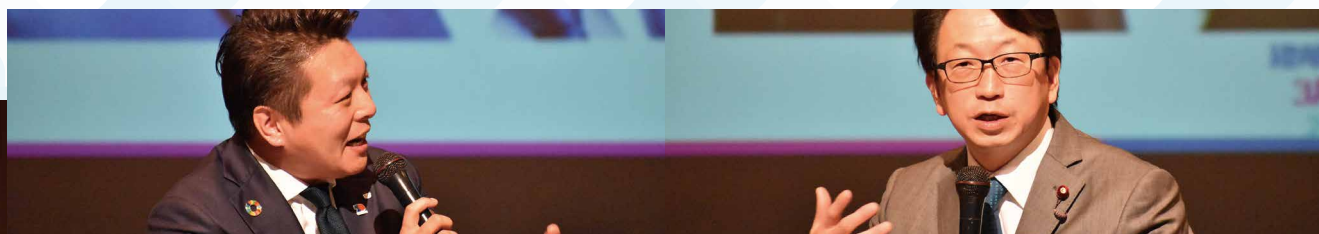


技術やアイデアをシェアし ビジネスで社会課題を解決する

パネルディスカッションを実施した第二部では、株式会社ケアベッツ代表取締役である藤田英明氏、そしてアンター株式会社代表取締役である中山俊氏にご登壇いただきました。

オープンイノベーターであるお二人から、介護問題と犬猫殺処分問題を同時にカバーする「ペット共生型障がい者グループホームわおん」や、医師同士が専門

領域をシェアし、実名で相談をすることができるプラットフォーム「Antaa QA」など、現在取り組んでいる活動についてご紹介いただきました。さらに事業の定め方や協力団体へのアプローチ方法など、具体的な方法論について経験談を交えながら、中小企業がオープンイノベーションを起こすために「今からできること」について議論を行いました。



行動の先に結果がある 「アクションを起こす」ことの重要性

第三部では、「東京の未来のために民間企業が取り組むべきこと」をテーマに、平将明氏と第70代東京青年会議所理事長である塩澤正徳君による対談を行いました。

「社会のために何を為すべきか」、迷ったときはとにかく行動を起こすこと。そして例え失敗してもそこから学びを得ることが最も大切であるということ、一同再認識しました。

また、本例会ではオープンイノベーション事例についてのブース展示や全体懇親会を開催。東京青年会議所のメンバーや一般の方々が参加し、さまざまな業種、業界の経営者や企業で活躍するリーダーたちが交流しました。

今後、東京青年会議所はオープンイノベーションを活用した取り組みにも積極的に挑戦していきます。